聖徳太子ゆかりのスポット

C-1 四天王寺 (旧境内) （四天王寺１丁目）
推古天皇元年 (593) 日本仏法最初の官寺として聖徳太子により建立された寺院が四天王寺である。場所については「日本書紀」と「上宮聖徳太子伝補闕記」では相異があり、前者は荒陵 (あらはか) の地、つまり現在地と伝え、後者は最初玉造 (中央区) に創建され「推古天皇元年に荒陵に移る」という旨の記載がある。しかし決着は出ていない。因みに現在の四天王寺は山号を荒陵山といい、何れの宗派にも属しない単立寺院で和宗を名乗る。伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」と呼ばれる独特なもので日本最古の建築様式のひとつである。

C-1 四天王寺 (聖霊院(しょうりょういん)) （四天王寺１丁目）
聖徳太子をお祀りしている太子殿と太子奥殿を「聖霊院」といい、太子殿には南無仏二歳像と聖徳太子孝養像（秘仏）、奥殿には聖徳太子摂政像（秘仏）が祀られている。

C-1 四天王寺 (西門石鳥居 (さいもんいしのとりい)) (重要文化財)（四天王寺１丁目）
永仁２年（1294）に忍性（にんしょう）の建立による石造りの大鳥居である。中央の扁額には「釈迦如来転法輪処、当極楽土東門中心」と書かれているが、この門は中世浄土思想の影響で西方浄土の東門であると考えられ、ここで彼岸に夕陽を拝し極楽浄土を想うという「日想観（じっそうかん）」の修行がなされたところである。現在でも、春秋の彼岸の中日には、太陽がこの鳥居の中心をとおって沈むのを見ることができる。

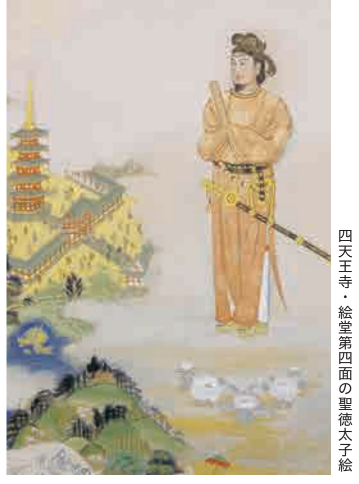
C-1 四天王寺 (亀井堂 (かめいどう)) （四天王寺１丁目）
亀井堂は戦火で焼失後、昭和 30 年（1955）に再建された。亀井堂の霊水は、金堂の地下より湧きいずる白石玉出の水で、回向（供養）を済ませた経木を流せば極楽往生が叶うといわれている。東西桁行は、四間あり、西側を亀井の間と呼んでいる。東側は影向の間と呼ばれ、左右に馬頭観音と地蔵菩薩がある。中央には、その昔聖徳太子が井戸に姿を映し、楊枝で自画像を描いたという楊枝の御影が安置されている。

C-1 四天王寺 (五重塔) （四天王寺１丁目）
現在のものは昭和 38 年（1963）の再建であり、８度目であるという。塔の総長 39.2m、相輪の長さが 12.3m もある。相輪の長さが塔全体の約３分の１に達するのが特徴で、塔の最上層部には舎利が奉安されている。

C-1 四天王寺 (金堂) （四天王寺１丁目）
五重塔、講堂とともに昭和 38 年（1963）に再建された。内部はエンタシスの柱間 14 面に総延長 50m にも及ぶ釈迦の一代を描いた中村岳陵画伯の筆による壮麗な壁画が描かれている。四天王寺が所蔵する国宝、重要文化財は二百数十点にも及び、その他にも絵画、彫刻、美術品など貴重なものを多く所蔵する。年中行事も永い歴史を有する寺院にふさわしく多彩な行事が行われる。

四天王寺

C-1 四天王寺庚申堂 (こうしんどう) （堀越町）
大宝（たいほう）元年（701）正月７日庚申の日に、青面金剛童子（しょうめんこんごうどうし）がこの地に出現し、当時大流行の疫病をしずめたという。それでここが庚申信仰発祥地といわれ、三猿信仰や庚申の日に北向きで「こんにゃく」を食べるなどの風習を生んだ。東側の道は庚申街道と呼ばれ、平野区長吉あたりまで続いている。


四天王寺・絵堂第四面の聖徳太子絵

C-1 四天王寺 (絵堂) （四天王寺１丁目）
聖霊院の一角にある聖徳太子の一生を絵にした絵伝を納める絵堂。杉本健吉画伯が昭和 52 年（1977）の着手から６年かけて描きあげられた壁画があり、毎月 22 日に一般公開されている。

C-1 四天王寺七宮
聖徳太子は、四天王寺を創建した際に併せて、四天王寺の外護として七つの神社を建立したとされる。これらの神社を四天王寺七宮といい、久保神社・大江神社・河堀稲生神社・堀越神社・土塔神社・小儀神社・上之宮神社を指す。

C-1 河堀稲生神社 (こぼれいなりじんじゃ)（堀の跡）（大道３丁目）
景行天皇が稲生を祀ったのが始まりといわれ、後に聖徳太子が本殿を造営し、叔父の崇峻天皇と併祀した。788 年和気清麻呂が農業の振興と水害の防止を目的に、摂津と河内の国境に河川を築いて西方の海に流し込む大規模土木工事を行う為、工事の安全を祈願した。この工事を境に付近一帯の地名表記は古保礼（こぼれ）から河堀と改まった。茶臼山の河底池はその名残と言われ、「和気橋」という橋が架かっている。

C-1 久保神社 (くぼじんじゃ) （勝山２丁目）
四天王寺七宮の一つで、四天王寺建立の際に聖徳太子が創建した。昔、この辺りが窪地だったのでこの社名になったともいわれる。境内社の願成就宮は、聖徳太子が四天王寺建立の願をかけたことから、現在も願掛けが多い。

C-1 堀越神社 (ほりこしじんじゃ) （茶臼山町）
聖徳太子により、風光明媚な茶臼山の地に、四天王寺建立と同時に四天王寺七宮のひとつとして創建された。明治中期まで、南沿いに美しい堀があり、この堀を越えて参詣したので、堀越という名が付けられたといわれる。八軒家浜近くの熊野街道の第一王子「窪津王子」は堀越神社に合祀され「熊野第一王子之宮」として現在に至る。

C-1 大江神社 (おおえじんじゃ) （夕陽丘町）
四天王寺七宮の一つで乾の社として毘沙門天を本尊にしていたが、明治維新の神仏分離によって今は豊受大神を祀っている。境内には芭蕉、千李、三津人、暁台の句を刻んだ四吟碑がある。境内奥には狛犬ならぬ狛虎も鎮座する。明治 40 年 (1907) に、四天王寺七宮のうち上之宮神社、小儀神社、土塔神社の祭神が合祀された。

C-1 小儀宮跡 (おぎのみやあと) （勝山２丁目）
江戸時代に発足した天王寺村のひとつである小儀村の鎮守小儀神社の跡地で、祭神は素戔嗚尊を祀っていたが、明治期に大江神社に合祀され現在は石碑のみが残っている。

B-2 上之宮址 (うえのみやあと) （上之宮町）
上之宮神社として聖徳太子の祖父である欽明天皇を御祭神として祀っていたが、明治期に大江神社に合祀され現在は石碑のみが残っている。

C-1 愛染堂勝鬘院 (あいぜんどうしょうまんいん)
（愛染さん）（重要文化財・大阪府有形文化財）（夕陽丘町）
聖徳太子が勝鬘経 (しょうまんきょう) を講読したところであると伝えられる。本尊に愛染明王を安置するため別名を「愛染堂」ともいわれる。本堂は元和４年 (1618) に再建されたもので、大阪府有形文化財に指定されており、多宝塔は文禄 (ぶんろく) ３年 (1594) 豊臣秀吉の建立といわれる。多宝塔は大阪市内最古の木造建築物であり、重要文化財に指定されている。

C-1 真光院 (しんこういん) （夕陽丘町）
594 年聖徳太子による創建で、父・用明天皇の供養の際に阿弥陀如来が西北の方角に来迎されたことから、四天王寺境内の西北にお寺が建立された。この地には太子が六万体の地蔵尊を造り祀ったという伝承があり、「六万体地蔵尊安置の寺」として有名である。

C-1 超願寺 (ちょうがんじ)（竹本義太夫墓所）（大阪市顕彰史跡）（大道１丁目）
推古 22 年 (614)、聖徳太子の父である用明天皇の冥福を祈るために小堂を構えたのが始まりとされる。翌年、蘇我馬子の子慧観（えかん）が住職となり超願寺と改めた。境内には人形浄瑠璃の黄金期を築いた竹本義太夫の墓所がある。四天王寺七宮の一つ土塔神社があったとされる。

C-1 清水寺 (きよみずでら)（玉出の滝）（伶人町）
寛永 17 年 (1640)、延海阿闍梨によって、京都の清水寺を模して高台に建立された。本尊として、京都の清水寺から、聖徳太子作といわれる千手観音を譲り受けたため「新清水寺」と呼ばれる。境内には、大阪市内で唯一の天然滝とされる「玉出の滝」や、西側の崖に「清水寺舞台」がある。

C-1 統国寺 (とうこくじ)（ベルリンの壁）（広瀬旭荘墓所）（大阪市顕彰史跡）（茶臼山町）
百済僧観勒（602 年来日）を招き、釈迦三尊を本尊とする百済古念仏寺として始まった。聖徳太子が創建したといわれる。1615 年大坂夏の陣で焼失したが、1689 年法源和尚により再建された後、黄檗宗邦福寺と改められた。1969 年在日本朝鮮仏教徒協会の傘下に入り統国寺として再興され現在に至る。境内には朝鮮半島統一を願い寄贈された高さ 3.6m のベルリンの壁２基が置かれている。また、江戸時代後期の儒学者・詩人である広瀬旭荘 (ひろせぎょくそう) の墓所がある。

清水寺・玉出の滝

A-2 鵲森宮 (かささぎもりのみや)（中央区森ノ宮中央１丁目）
約 1400 年前、聖徳太子が物部守屋との戦いに際し、勝った暁には四天王寺像を作ることを誓い、玉造稲荷神社に必勝を祈願した。戦いに勝利した太子は、物部守屋の領地であったこの地に寺を建て、その鎮守のため、父母の用明 (ようめい) 天皇と穴穂部間人 (あなほべのはしひと) 皇后を祀り、四天王寺像を造った。一説によると、この地に四天王寺を創建し、のちに現在の天王寺へ移転したといわれる。

各スポット名の前にある記号（C-1 等）は、表面地図
右下にあるエリア分けの記号と合致しています。
この記号から地図上の位置を探してみてください。

天王寺区マスコットキャラクター
ももてんちゃん

歴史・戦国武将スポット

A-1 大阪城 （中央区大阪城）
秀吉は天下統一の拠点として権威と権力を象徴する難攻不落の巨城を築いた。豪壮華麗なその姿は「三国無双」と称された。慶長19年～20年(1614～1615)の大坂の陣で落城、現在は、昭和6年(1931)に大阪市民の熱意によって再建された鉄筋鉄骨コンクリート造り、地上 55m の３代目天守閣である。

A-1 越中井 (えっちゅうい) （中央区森ノ宮中央2丁目）
この付近は細川越中守忠興 (ただおき) の邸跡で、越中井はその邸内にあったものといわれている。慶長５年 (1600) 関ケ原戦の直前、忠興が家康に従い上杉攻めに出陣中、石田三成は在坂諸大名の妻子を人質にしようとしたが、忠興夫人玉子（洗礼名ガラシャ）はこれに従わず、家臣に胸を突かせて 37 歳の生涯を閉じた。近くのカトリック教会には、ガラシャ夫人像とキリシタン大名の高山右近 (たかやまうこん) 像がある。

A-2 玉造稲荷神社 (たまつくりいなりじんじゃ)
（豊臣秀頼（とよとみひでより）公銅像）（中央区玉造2丁目）
紀元前12年の秋に創祀されたと伝えられる由緒ある神社。豊臣秀頼奉納の鳥居や千利休の顕彰碑などが並ぶ豊臣家ゆかりの神社でもある。境内には難波玉造資料館もあり、古代玉遺物、玉の歴史や玉作り工程、古代土器など貴重な資料が展示されている。平成 23 年(2011)には境内に豊臣秀頼公銅像が建立された。

B-3 三光神社 (さんこうじんじゃ)
（真田幸村公之像、真田の抜穴跡）（玉造本町）
明治41年(1908)に境内の三光宮を合祀してより「三光神社」と呼ばれるようになった。慶長19年(1614)の大坂冬の陣の頃、真田幸村が大坂城まで掘らせたといわれる「真田の抜穴跡」が残されている。また、境内には真田幸村公の銅像が建つ。

三光神社・真田幸村公之像

B-3 真田山公園 （真田山町）
昭和 14 年 (1939) に騎兵隊第四連隊のあった跡に開設され、現在は天王寺スポーツセンターなどのスポーツ施設も整備されている。このあたりは大坂冬の陣で真田幸村が活躍した古戦場でもある。

B-3 心眼寺 (しんがんじ)（まん直し地蔵）
（真田丸出城跡）（大阪市顕彰史跡）（餌差町）
元和８年 (1622)、白牟（はくむ）和尚が真田幸村父子の冥福を祈って建立した寺で、門扉には真田家の家紋である六文銭が飾られている。境内には「まん直し地蔵」があり、運の悪い時に祈願すると、幸運が訪れるご利益があるといわれている。大坂冬の陣から 400 年の平成 26 年 (2014)10 月、境内に幸村のお墓が建立された。

B-3 産湯稲荷神社（うぶゆいなりじんじゃ） （小橋町）
比賣許曽神社（ひめこそじんじゃ）の旧境内で、大小橋命（おおおばせのみこと）の産湯に境内の井戸水が使われたことから産湯稲荷神社と称せられた。織田信長の石山合戦、第二次世界大戦により焼失し、昭和 24 年に再建された。この産湯稲荷神社あたりの丘陵は桃山と呼ばれ明治時代まで広大な桃の林があり、大正８年 (1919) に埋め立てられた味原池とともに景勝地として知られていた。さらに、真田の抜け穴と伝えられた跡もあった。

B-1 円珠庵（えんじゅあん）鎌八幡（かまはちまん）（契沖旧庵並びに墓）（空清町）
境内には鎌八幡と呼ばれる霊木があり、大坂冬の陣のとき、真田幸村が榎の木に鎌を打ち付けて必勝を祈願し、戦勝をあげたと伝えられる。江戸時代前期の古典学者、歌人、僧侶である契沖 (1640 ～ 1701) の墓所がある。

安居神社・真田幸村公之像 © 播間公次

C-1 安居神社（やすいじんじゃ）（真田幸村公之像）（逢阪1丁目）
天王寺七名水のひとつ、「安居の清水」があり「かんしずめ（癇鎮め）の井」として有名であったが、今はその井戸跡だけが残っている。また、大坂夏の陣で徳川軍と戦い、負傷した真田幸村が、この神社まで逃れてきたところを越前兵に急襲され、戦死した場所といわれる。境内には幸村の像と戦死跡の碑がおかれている。

茶臼山と河底池

C-1 茶臼山と河底池 （茶臼山町）
大坂冬の陣で家康の本陣となり、夏の陣では幸村が布陣し激戦地となった茶臼山。大阪五低山の一つであり、標高は 26m。奈良時代には和気清麻呂が河内川の流水を南にひこうとした河底池とともに、天王寺公園の風景にとり入れられている。昭和 61年(1986)の発掘調査では古墳の築造と同様の方法で盛土が行なわれたことがわかったほかは、古墳を示す資料は発見されなかったが、家康の本陣跡の建物や地面を掘ってつくった水路が確認された。一心寺の寄贈で「大坂の陣茶臼山史跡碑」、てんのうじ観光ボランティアガイド協議会及び一心寺の寄贈で、「茶臼山山頂碑」が建立されている。

C-1 一心寺（お骨仏と断酒祈願の寺、本多忠朝墓所、林家染丸 (初代・二代目) 墓所） （逢阪2丁目）
山号を坂松山という浄土宗の寺院である。開基は法然上人(ほうねんしょうにん)であるといい、法然が「日想観」を修するために営んだ庵室の跡であると伝えられる。慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いがあった年、徳川家康の第8男仙千代君が夭折し、一心寺で葬儀が営まれ、以来、家康との結びつきが強く、慶長19 年 (1614)の大坂冬の陣では家康の本陣が当地におかれた。

C-1 一心寺（存牟堂（ぞんむどう）） （逢阪2丁目）
一心寺によって整備された、歴史散策案内所などがある存牟堂（ぞんむどう）。重要文化財「大坂夏の陣図屏風」（大阪城天守閣所蔵）の複製陶板が飾られているほか、大坂夏の陣を紹介するため制作したアニメが放映されている。

天王寺七坂スポット

B-2 坂 -1. 真言坂 (しんごんざか) （生玉町）
生國魂神社にあり、天王寺七坂のうち唯一南北に通る坂である。真言宗の生玉十坊と呼ばれた、10 のお寺が周辺にあったことから、生玉真言坂とも呼ばれる。

B-2 坂 -2. 源聖寺坂 (げんしょうじざか) （下寺町１丁目）
狭い石畳の緩やかな坂道で、坂の上り口にある源聖寺の境内をけずって東西に抜ける道にしたことからこう呼ばれる。織田作之助の「夫婦善哉」の舞台にもなった。

B-2 坂 -3. 口縄坂 (くちなわざか) （夕陽丘町）
下から見ると蛇 (くちなわ) のように見えるところから坂の名がつけられた。一説には大坂城築城の際の測量起点 (縄打ち口) であったからだとも。

C-1 坂 -4. 愛染坂 (あいぜんざか) （夕陽丘町）
大江神社南側の坂道で、坂の下り口にある愛染堂 勝鬘院（愛染さん）に参る道であることから名づけられた。

C-1 坂 -5. 清水坂 (きよみずざか) （伶人町）
清水寺に上がる坂道であるところからこう呼ばれる。

C-1 坂 -6. 天神坂 (てんじんざか) （伶人町）
菅原道真をまつる安居神社（天神）に通じるところからこの名がつけられた。

C-1 坂 -7. 逢坂 (おうさか) （逢阪１丁目）
松屋町筋終点、いわゆる合法ヶ辻から四天王寺西門に至る坂道である。逢坂は、逢坂の関になぞらえて呼んだものと、他説では聖徳太子と物部守屋の２人が信じる方法を比べ合わせたと言われた「合法四会」に近いことにより合坂と名付けられたなどの諸説がある。

口縄坂

寺町・夕陽丘スポット

生國魂神社

B-2 生國魂神社 (いくくにたまじんじゃ) （生玉町）
天正11年(1583)に豊臣秀吉が大坂城を築く地を石山崎と定めたため現在の地に移された。「生國魂造り」という様式のちがう破風を重ねた他に類例を見ない桃山時代の社殿様式を取り入れたものである。現在の建物は昭和31年（1956)に建てられたものである。境内には11の社があり、落語の祖といわれる米澤彦八の碑や井原西鶴像、織田作之助像、松尾芭蕉句碑などもある。

B-2 藤次寺 (とうじじ)（大阪の融通さん）（木造弘法大師坐像ー大阪府有形文化財）（生玉町）
弘仁年間 (810 ～ 824) に左大臣藤原冬嗣（ふゆつぐ）の発願により甥の任端上人が開創した藤原氏の氏寺。生玉十坊の一つであり、「大阪の融通さん」として親しまれている。木造弘法大師坐像 (室町時代) は昭和 59 年 (1984) に大阪府有形文化財に指定されている。

B-2 青蓮寺 (しょうれんじ)（竹田出雲墓所）（大阪市顕彰史跡）（生玉寺町）
竹田出雲 (1691 ～ 1756) は、竹本義太夫から竹本座の経営を引き受け、同座を繁栄へと導いた近松門左衛門と並ぶ浄瑠璃作家の巨匠で、菅原伝授手習鑑、義経千本桜、仮名手本忠臣蔵など幾多の名作を残した。

B-2 銀山寺 (ぎんざんじ)（お千代・半兵衛墓所）（生玉寺町）
近松門左衛門の「心中宵の庚申」の主人公、八百屋半兵衛と妻お千代の墓がある。

B-2 齢延寺 (れいえんじ)（藤澤東畡墓所）（生玉町）
元和9年(1623)に開創。境内には幕末に活躍した儒者の藤澤東畡・南岳父子や、緒方洪庵、斉藤方策と並ぶなにわの３名医のひとり、原老柳の墓がある。

B-2 太平寺 (たいへいじ)（十三まいりの寺）（夕陽丘町）
寛文３年(1663)加賀国大乗寺第 21 世超山誾越和尚が開山した曹洞宗の禅寺で、山号は護国山という。幕末までは朝廷をはじめ加賀藩大坂蔵屋敷の菩提寺として厚い庇護のもとに隆盛を誇った。十三まいりは、江戸の「七五三」に対し、大坂・京都で盛んになった行事であり、13 歳になった子どもが、菩薩の縁日である３月 13 日、４月 13 日に参詣する。別名を「智恵詣」ともいう。

B-2 伝 藤原家隆 (ふじわらいえたか) 墓（大阪府指定史跡）（夕陽丘町）
藤原家隆（ふじわらいえたか）（1158 ～ 1237）は鎌倉時代初期の人で、藤原定家と並び称される歌人である。「新古今和歌集」の編纂にも撰者の１人として参加している。この塚は享保（きょうほう）年間 (1716 ～ 1736) の建立であるというがその碑文は判読できない程風化してしまっている。また「夕陽丘」の地名は家隆の「契りあれば難波の里に宿り来て波の入日を拝みつるかな」という和歌によるものという。

B-2 織田作之助文学碑・大阪府立夕陽丘高等女学校跡碑 （夕陽丘町）
口縄坂の上に「木の都」の一節が刻まれた織田作之助文学碑があり、坂の途中には大阪府立夕陽丘高等女学校跡碑がある。

B-2 浄春寺 (じょうしゅんじ)（麻田剛立墓所）（大阪市顕彰史跡）（夕陽丘町）
麻田剛立（1734 ～ 1799）はもと豊後杵築藩の医官で、明和８年（1771）来坂して医学・天文の分野に大きな業績をのこした。この地は藤原家隆（いえたか）が隠棲し庵を結んだ跡ともいわれる。また、ここには江戸末期の画家、田能村竹田の墓がある。

C-1 浮瀬亭跡（うかむせていあと） （伶人町）
大阪星光学院内には、江戸時代、芭蕉や蕪村も来遊して句を残した料亭「浮瀬」があった。現在、その跡地は同校により「蕉蕪園」として整備。また、同校北側にある愛染坂の中ほどには、平成26年(2014)に「浮瀬顕彰板」が設置された。

C-1 増井の清水（ますいのしみず）（大阪市顕彰史跡）（伶人町）
上町台地の南部には良水の井戸が多い。これらを「逢坂清水」といい、「天王寺七名水」ともいう。増井の清水もその一つである。天神坂の北側、興禅寺と清水寺にはさまれた屋敷の一角に古びた井戸の屋形が残されている。

B-2 鳳林寺（ほうりんじ）（上島鬼貫墓所）（大阪市顕彰史跡）（六万体町）
上島鬼貫（うえしまおにつら）(1661～1738) は幼い時から俳諧の才能を発揮したといい８歳の時に詠んだのが「来い来いといへど蛍が飛んで行く」であった。25歳の時に「まことの外に俳諧なし」と悟ったといわれる。伊丹風といわれる独自の俳風を創りあげた。人柄は至孝、温厚、篤実で俳諧師としての名声はもとより人格者としての名も高かったといわれる。

B-2 吉祥寺（きっしょうじ）（赤穂義士墓所）（大阪市顕彰史跡）（六万体町）
寛永７年 (1630) 創建の曹洞宗の禅寺で、山号は万松山という。当時の住職が赤穂の出身で、特に浅野長矩 (あさのながのり) の帰依を受け浅野家の菩提寺として参勤交代の折には必ずこの寺院に立寄ったという。義士の墓は山門を入って境内の南西隅にあり、中央の五輪の塔が長矩公のもので、右隣に大石内蔵助の墓、左側が大石主税の墓がある。更にその周囲を 44 士の戒名と行年を刻んだ玉垣が取り囲んでいる。境内には 47 士の石造も建てられている。

B-2 大蓮寺 (だいれんじ)・應典院 (おうてんいん)（吉本芸人塚、天王寺高校開校の地碑）（下寺町1丁目）
天文 19 年 (1550) 足利家の大坂における祈願所として開基し、近畿の名刹であったといわれている。大蓮寺の塔頭 (たっちゅう) 寺院「應典院」。円形の本堂があり、ここでは心の文化センターとして多彩なイベントが行われている。境内には、吉本芸人塚や天王寺校開校の地碑もある。

B-2 称念寺（しょうねんじ） （下寺町１丁目）
慶長元年 (1596) の開山、徳川時代初期に泉州岸和田の海中から発見された石仏が一願観音として尊信を集める。

B-2 浄國寺 (じょうこくじ)（夕霧太夫墓所）（下寺町１丁目）
遊女夕霧太夫の墓で有名。夕霧太夫は江戸の高尾、京の芳野、なにわの夕霧といわれるほどの絶世の美女であったという。

B-2 源聖寺（げんしょうじ） （下寺町１丁目）
「延命火除 (ひよけ) 地蔵尊」が奉られている。なお、源聖寺坂の名称は、昔境内をけずって東西に抜ける道にしたことからこう呼ばれている。

B-2 金台寺（こんたいじ） （下寺町１丁目）
明暦２年(1656) に建立され、大阪市内最古の浄土宗寺院の本堂がある。

B-2 萬福寺 (まんぷくじ)（新撰組屯所）（下寺町１丁目）
芭蕉句碑「尊かるなみだや染めてちる紅葉」があり、「新撰組」の屯所であったことで知られる。

B-2 大覚寺（だいかくじ） （下寺町１丁目）
「千手観音菩薩」が安置され、大阪三十三ケ所観音巡り 27 番目の場所である。

B-2 光明寺 (こうみょうじ) （下寺町１丁目）
大阪狩野派の大岡春卜などの見事なふすま絵・屏風などが現存する。

サブキャラクター
かぶ太子

B-2 宗念寺（そうねんじ） （下寺町１丁目）
本尊である阿弥陀仏像は、右手を上にするのが普通だが、左手を上にする「左上の弥陀」として全国的にも珍しい。

B-2 西往寺 (さいおうじ) （下寺町１丁目）
室町時代の創建とされる。塀が赤いのは室町時代にこの寺を開いた住職が薬事に精通していて、薬を取り扱っていたことからといわれており、また、壁に白線が入っているのは帝より許可された証拠といわれる。

B-2 光傳寺（こうでんじ）（鯛屋貞柳墓所）（大阪市顕彰史跡）（下寺町１丁目）
鯛屋貞柳（たいやていりゅう）（1654 ～ 1734）は本名を永田清兵衛といい、南御堂前で手広く営む菓子商に生まれた。鯛屋はその屋号である。俳人である父、叔父の影響を受けて早くから狂歌に素晴らしい才能を発揮したといわれる。それまでは、歌人、俳諧師の余技にすぎなかった狂歌であったが、彼の出現ののちは、職業的な狂歌師が次々と現れるようになった。

B-2 超心寺(ちょうしんじ) （下寺町１丁目）
慶長８年 (1603) 開山、伝。幕末維新を駆け抜けた明治期の歌舞伎作者である勝歌女助 (かつかめすけ) の墓がある。他に七代龍王神や柿本人麻呂大明神などを奉っている。

B-2 心光寺(しんこうじ) （下寺町１丁目）
タージマハルを小さくしたような不思議な本堂がある。

B-2 法界寺（ほうかいじ） （下寺町１丁目）
門を入ったところに祠 (ほこら) がある。「安産地蔵」(別名ー住吉の誕生地蔵)。このお地蔵さんには逸話があり、多くの人がお参りに訪れるという。

B-2 大光寺（だいこうじ） （下寺町２丁目）
文禄元年 (1592) 開山。昭和15 年(1940) に通った学園坂は元はこの寺の敷地であった。坂沿いの地蔵はその時に外に移したもので、この地蔵は通称「まんじゅう食い地蔵」と呼ばれ、おまんじゅうを供えると霊験あらたかと言われる。

サブキャラクター
天の王子

B-2 善福寺（ぜんぷくじ） （下寺町２丁目）
天正 19 年 (1591) 開創、戦災で罹災し鐘つき堂以外すべて焼失した。元は大光寺の隣にあったが昭和27年(1952) に現地に移動した。

B-2 宗慶寺（そうけいじ） （下寺町２丁目）
松竹新喜劇で有名な渋谷天外 (しぶやてんがい) の初代と２代目の墓がある。以前には大相撲大阪場所の相撲部屋が使っていたことも。

B-2 善龍寺 (ぜんりゅうじ) （下寺町2丁目）
慶長7年(1602)開創。戦災で山門を残し全焼した。元は松屋町筋沿いにあったが、昭和47年（1972）再建時に現地に移動。境内の桜と「海中出現地蔵尊」が有名。

B-2 称名寺（しょうみょうじ） （下寺町2丁目）
寛永元年 (1624) 開基。戦災で門を残して全焼した。「海中出現口縄正観世音菩薩」があり、「口縄坂」の口縄の名はこの菩薩名からきているという説も。

B-2 西照寺（さいしょうじ） （下寺町2丁目）
門を入ると左側に「十一面観音菩薩像」、右側に安政6年(1859) につくられた「仏足石(ぶっそくせき)」がある。仏足石とはお釈迦様の足を型としたもので、これほど古いものはこの辺りにないといわれる。

B-2 正覚寺（しょうかくじ） （下寺町2丁目）
文禄元年 (1592) 開基。「月見して如来の月光三昧や」を残して去った俳人、松瀬青々の墓がある。また、江戸時代に飛脚業を営んでいた日本通運が建てた「家業奥立地蔵 (かぎょうおくだてじぞう)」などがある。

C-1 幸念寺（こうねんじ） （下寺町2丁目）
慶長元年 (1596) 開基。門を入ったところに「子安地蔵菩薩」がある。また、手をあて念ずれば願いがかなうという現代仏教詩人、坂村真民の「念ずれば花ひらく」の霊碑がある。

C-1 西念寺（さいねんじ） （下寺町2丁目）
戦災で焼失し、運慶 (うんけい) 作といわれる「阿弥陀如来立像」だけが残っている。境内には昭和 62 年 (1987) に玉造から移した「子授け地蔵」が祀られている。

C-1 良運院（りょううんいん） （下寺町2丁目）
開基は元和年間 (1615～1624)、良運上人の開山。境内を入って正面には４m はあろうかという「日限地蔵 (ひぎりじぞう)」が祀られている。その横に福を招くという豊川稲荷の「ダキニ天の社」がある。

C-1 円成院 (えんじょういん)（通称 : 遊行寺 (ゆうぎょうじ)）
（植村文楽軒墓所）（大阪市顕彰史跡）（下寺町2丁目）
竹本座・豊竹 (とよたけ) 座の没落ののち、人形浄瑠璃も急激に衰退してしまったが、これを復興させたのが初代の植村文楽軒である。２代目文楽軒の時に定小屋ができ、人形浄瑠璃はその頃から「文楽軒の芝居」と呼ばれていたが、それが「文楽」と呼ばれるようになったのは、明治５年 (1872) ３代目文楽軒の時からである。また、ここには元禄７年 (1694) に 51 歳で没した芭蕉の供養碑がある。

C-1 和空 下寺町 (わくう したでらまち) （下寺町2丁目）
お寺が集積している下寺町に平成 29 年 (2017) にオープンした宿坊施設。宿坊は本来、僧侶や参拝者のための施設を指すが、「和空 下寺町」では一般観光客の宿泊も受け入れ、護摩焚き見学、写経、御朱印帳づくりなどの寺社文化体験ができる。

わくわく魅力スポット

難波宮・古代スポット

B-1 東高津宮 (ひがしこうづぐう) （東高津町）
東高津宮は大阪の氏神様、仁徳天皇を御祭神と仰ぎ、古くは平野社といい、現在の近鉄電車「大阪上本町」駅の位置にあったが、昭和7年(1932)に東高津町に遷宮された。

B-4 堂ヶ芝廃寺(どうがしばはいじ)（観音寺境内）（大阪市顕彰史跡）（堂ヶ芝１丁目）
堂ヶ芝の地と周辺から古代の瓦片は多数出土しており、古代の寺院跡と推定されている。かつて巨大な塔心礎も残っていた。この地を大別王寺や百済寺の跡と考える説もある。

C-2 摂津国分寺跡（せっつこくぶんじあと）（大阪市顕彰史跡）（国分町）
この地域は昔から国分寺の名を伝え、奈良時代の瓦が出土したこともあって、古来摂津国分寺跡と推定されている（国分公園内碑文)。国分寺跡は各地に遺存するが、摂津国分寺についてはほとんど知られることなく、奈良時代の蓮華文や唐草文の軒瓦などを出土したにとどまる。

B-2 上本町遺跡(うえほんまちいせき) （小宮町）
平成21～22年(2009～2010)発掘調査において、北西から南東へ続く幅約5m、深さ約1.5m の谷と、そこに架けられていた橋が発見された。谷に対して橋は斜めに架けられており、その方向は正南北を意識したもので、難波京の条坊 (碁盤目状のいわば都市計画道路) 復元線に一致することがわかった。さらに、橋の延長線上に条坊道路の側溝とみられる遺構が発見され、条坊の存在が初めて確認された。調査後に埋め戻されている。

広告掲示板 ◎広告に関する一切の責任は広告掲載者に帰属します。
また、大阪市が推奨するものではありません。

真田幸村のふるさと
信州上田
一般社団法人 信州上田観光協会 ☎0268-71-6074

B-4 細工谷遺跡(さいくだにいせき) （細工谷１丁目）
平成８年 (1996) に全国初の発見となった和同開珎の枝銭や、今まで知られていなかった「百済尼寺」の存在を示す多数の墨書土器や瓦が出土した。また、金属加工に関連した遺物や富本銭、尼の父の名前を記した木簡など、飛鳥時代 (７世紀) ～奈良時代 (８世紀) を中心とする数々の資料が見つかっている。細工谷遺跡で推定されるような古代寺院は、難波宮の南側に点在しており、条坊制が敷かれた「難波京」について考えるうえで重要である。出土遺物は平成 12 年 (2000) に大阪市指定文化財に指定されており、一部は天王寺区役所１階ロビーに展示されている。

芸能・文化スポット

B-1 高津宮 (こうづぐう) （中央区高津１丁目）
天正 11 年(1583)、豊臣秀吉が大坂城を築城した際にご神体を現在地に移したが、第２次世界大戦時の大阪大空襲で神社は全焼。現在の社殿は、戦後に再建されたもの。同社は古典落語「高津の富」「高倉狐」「崇徳院」の舞台として知られ、古くから大坂町人の文化の中心地として賑わっていた。

B-1 念仏寺 (ねんぶつじ)（橋本宗吉墓所）（上本町４丁目）
天正８年 (1580) 僧・大誉の創建。蘭学塾「絲漢堂」を開いた橋本宗吉 (1763 ～ 1836) の墓所がある。

B-1 妙中寺 (みょうちゅうじ)（岡田米山人、岡田半江墓所）（大阪市顕彰史跡）（上本町５丁目）
文人画家として名高い、父、岡田米山人（おかだべいさんじん）(1744 ～ 1820)、子、岡田半江（おかだはんこう）(1782 ～ 1846）の墓所がある。半江は詩文書画に優れ、田能村竹田、頼山陽らの文化人とともに交友し、大坂文人画の指導者であった。

B-4 大應寺 (だいおうじ)（木村蒹葭堂墓所）（餌差町）
寛永元年 (1624) 僧・証誉の創建。木村蒹葭堂 (きむらけんかどう、元文元年～享和２年 (1736 ～ 1802)、江戸中期の文人、文人画家、本草学者、蔵書家、コレクター) の墓所がある。

B-3 宝国寺（志太野坡墓所）（大阪市顕彰史跡）（餌差町）
江戸時代初期の俳人、松尾芭蕉の有名な 10 人の門人、芭蕉十哲の一人である志太野坡 (しだやば)(1663 ～ 1740) の墓所がある。

B-3 善福寺 (ぜんぷくじ)（どんどろ大師）（空堀町）
宝亀9年(778)開成皇子が開基したと伝えられる。寺前の通路は、近松作の人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門(けいせいあわのなると)」に登場する。また、「どんどろ大師門前の場」では母お弓と巡礼の子お鶴とが出会う場としても有名。

B-1 楞厳寺 (りょうごんじ)（織田作之助墓所）（城南寺町）
慶長２年 (1597) 僧、禅牛の開創。「夫婦善哉」などで知られる織田作之助 (1913 ～1947)の墓所がある。

B-1 梅松院 (ばいしょういん)（片山北海、入江昌喜墓所）（大阪市顕彰史跡）（城南寺町）
江戸後期の儒学者で、かつ大阪の代表的な詩文家である片山北海 (かたやまほっかい)(1723 ～ 1790) と、大坂国学の三羽烏と称された、町人学者の一人である入江昌喜 (いりえまさよし)(1722 ～ 1800) の墓所がある。

公園・近代・その他スポット

B-1 大福寺 (だいふくじ)（浪華仮病院跡）（大阪市顕彰史跡）（上本町４丁目）
明治２年（1869）に明治政府と大坂府の財政難により、大福寺の施設提供を受け、仮病院を開業。門前に石柱が建ち境内には院長の緒方惟準やオランダ人医師のボードウィンの記念碑がある。

B-1 実相寺（じっそうじ）（実相寺浄土曼荼羅図ー重要文化財）（上本町４丁目）
浄土宗の寺院で、住友家の初代住友政友を始め、住友家歴代の墓碑がある。実相寺浄土曼荼羅図は、当麻曼荼羅の忠実な模写で、極楽浄土の模様が克明に描かれており彩色にも細心の注意が払われていて鎌倉時代仏画の優秀作品とされている。

B-3 真田山旧陸軍墓地 （玉造本町）
この墓地は明治４年（1871）の創設で、日本で最も早く設置された陸軍墓地である。墓地には西南戦争、日清戦争、今次大戦に至る戦没者将兵ら 5,100 基以上の墓碑が整然と並び、納骨堂には 8,100 余の遺骨が祀られている。

C-1 天王寺公園（旧黒田藩蔵屋敷長屋門）（大阪市顕彰史跡）（茶臼山町）
明治36年(1903)にこの辺から恵美須町一丁目、霞町付近にかけて大阪では初めての第５回内国勧業博覧会が開かれた。その跡地利用として西半分を新世界に、東半分を天王寺公園にしたもので、明治 42 年 (1909)に開設された長い歴史を持つ公園である。
平成27年(2015)10月には、エントランスエリアがリニューアルオープンした（愛称：てんしば）。令和元年 (2019)「てんしば i:na」がアクティビティと憩いの施設としてオープン。

天王寺公園

C-1 天王寺動物園 （茶臼山町）
平成 27 年（2015）１月１日に開園 100 周年を迎えた日本で３番目に歴史のある動物園。現在は約 11 ヘクタールの園内に、およそ 180 種類 1,000 点の動物が飼育されており、都心の気軽なオアシスとして多くの利用者で賑わっている。アフリカサバンナゾーンやアジアの熱帯雨林ゾーンなどが人気である。

天王寺動物園

C-1 大阪市立美術館 （茶臼山町）
昭和 11 年（1936）５月に開館した美術館。天王寺公園の中に位置しているが、その敷地は住友家の本邸があった場所で、美術館の建設を目的に庭園 (慶沢園) とともに大阪市に寄贈された。

大阪市立美術館

C-1 慶沢園 (けいたくえん)（大阪市顕彰史跡）（茶臼山町）
もと住友家の本邸の庭で、美術館の敷地とともに大阪市に寄贈されたものであり、10 年余りの歳月を要して完成した純日本風の林泉回遊式庭園である。

B-2 天王寺区民センター （生玉寺町）
市民の交流や活動の場として利用できる施設で、ホール、会議室、和室、多目的室からなる。
２階ロビーには、「大坂冬の陣」最大の激戦地と知られ、天王寺区内にあった「真田丸」について の研究結果 (平成 27 年 (2015) 時点) を反映した「真田丸復元ジオラマ」を展示している。